

野洲市文化ホール3施設の集約化検討書 (概要版)

令和4年2月

野洲市教育委員会

目次

経緯

第1章 文化ホール3館の現状

- 1 施設の概要
- 2 施設の特徴と利用形態
- 3 施設の利用状況等
- 4 施設の収支状況等

第2章 施設の課題

- 1 主な大規模な改修・修繕等項目と概算費用

第3章 公共施設のあり方

第4章 施設集約の基本的な考え方

- 1 施設維持
- 2 経済面
- 3 文化・芸術の振興

第5章 集約案検討

- 1 集約案メリット・デメリット
- 2 集約に必要な事業費見込み等
 - (1) 改修費
 - (2) 除却後の跡地利用
- 3 集約案評価・結果

(資料)

・スケジュール

(資料1)

経緯

野洲市文化ホールでは、野洲文化ホール、野洲文化小劇場、さざなみホールの3館で、野洲文化ホールの小ホール100名・大ホール1,000名、野洲文化小劇場300名、さざなみホール500名の100~1,000名収容できる4ホールを有し市民の文化の向上と芸術の振興を図る施設として運営している。

野洲文化ホールは築38年、野洲文化小劇場は築31年、さざなみホールは築29年が経過しているものの、これまで計画的な大規模修繕・改修が行われておらず、設備等の老朽化が進んでいる。

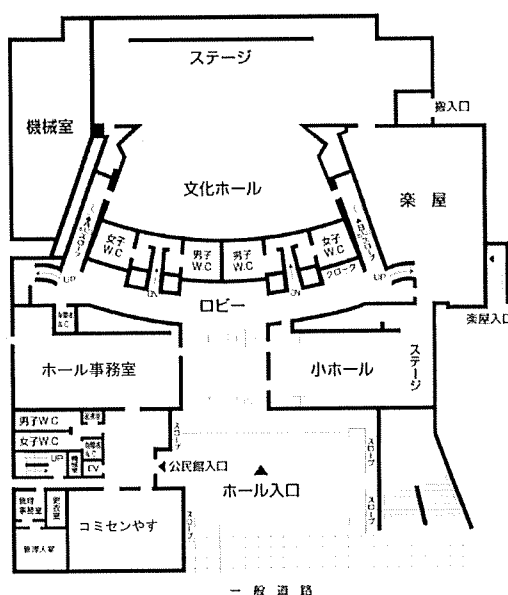
また、合併により重複しているホール機能について、効率的な運用を図るため、平成31年3月に策定された「野洲市公共施設のあり方」で施設の集約化の方向性が示されている。

第1章 文化ホール3館の現状

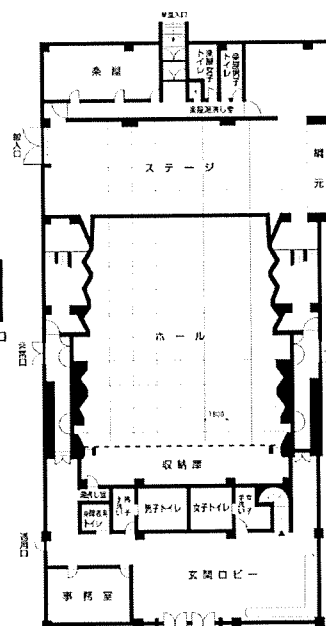
【1】施設の概要

施設名	項目	主構造	延床 (㎡)	建築年	築年数	法定耐用年数	耐震性	座席 (収容) 数
野洲文化ホール		鉄筋 コンクリート造	3,597.2	1983 (S58)	38	47	新耐震	大ホール1,003席 (固定) ※親子席72席 (固定)含む 小ホール100名
野洲文化小劇場		鉄骨鉄筋 コンクリート造	1,120.8	1990 (H2)	31	50	新耐震	300名 (椅子252席)
さざなみホール		鉄筋 コンクリート造	3,447.2	1992 (H4)	29	47	新耐震	495席 (固定)

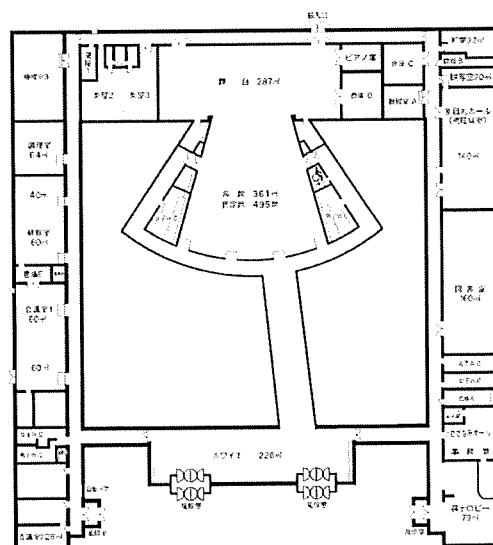
野洲文化ホール1階平面図



野洲文化小劇場平面図



さざなみホール平面図

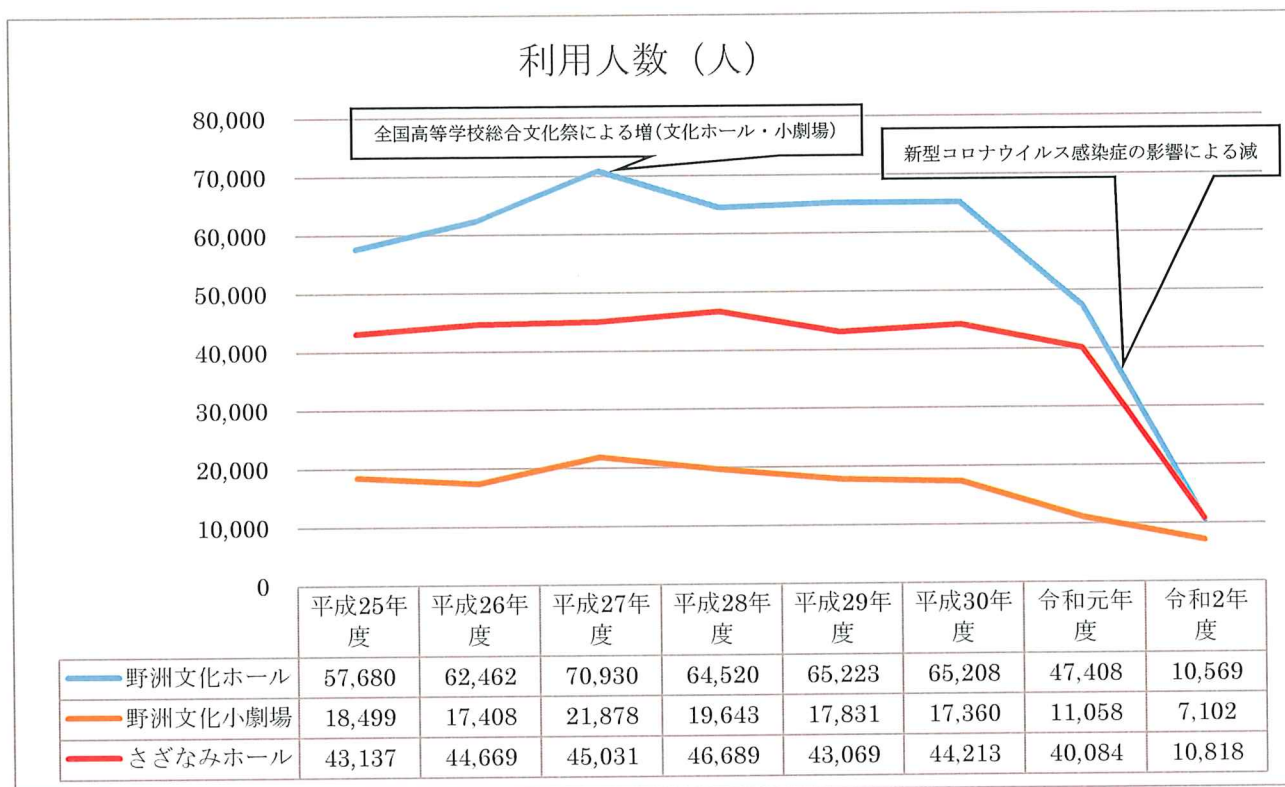


【2】施設の特徴と利用形態

野洲文化ホール	野洲文化小劇場	さざなみホール
<p>(特徴)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大小2種類のホールを有する市の文化振興の拠点施設である。 ・様々なジャンルの鑑賞型事業により本格的な舞台芸術に触れる機会を市民に提供している。 ・駅前立地で交通アクセスが良く、市民文化芸術団体の演奏会や野洲市文化芸術祭など市民のニーズに応じている。 ・県内高校の文化祭や県内企業の研修会など県内からも多くの利用がある。 ・成人式や市民の集いなど市主催事業にも使用している。 ・利用者の駐車場は施設前に99台分(うち車イス用3台)ある。 <p>(利用形態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共催の鑑賞型事業と貸館が中心である。 ・コミュニティセンターやすとの共用施設である。 	<p>(特徴)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・300名定員のスペースは多目的での利用が可能である。 ・駅前立地で交通アクセスが良く、市民文化芸術団体の小規模な発表会や様々な会合など市民のニーズに応じている。 ・企業の健康診断や各種団体の講習会など県内外からも利用がある。 ・野洲市美術展覧会や職員の健康診断、仕事初め式など市主催事業にも使用している。 ・利用者の駐車場は施設前に99台分(うち車イス用3台)ある。 <p>(利用形態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸館のみ。 ・コミュニティセンターやすのホールの役割がある。 	<p>(特徴)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホールの基本となる3面舞台が備わっている。 ・多目的ホールや会議室等は特定の市民文化芸術団体の定期的な利用もある。 ・野洲市青少年美術展や市が事務局を持つ団体(野洲市青少年育成市民会議、野洲市PTA連絡協議会)の催し物などにも使用している。 ・利用者の駐車場は敷地内に119台分(うち車イス用3台)ある。 <p>(利用形態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催事業の音楽教室と貸館が中心である。 <p>※指定避難所。</p>

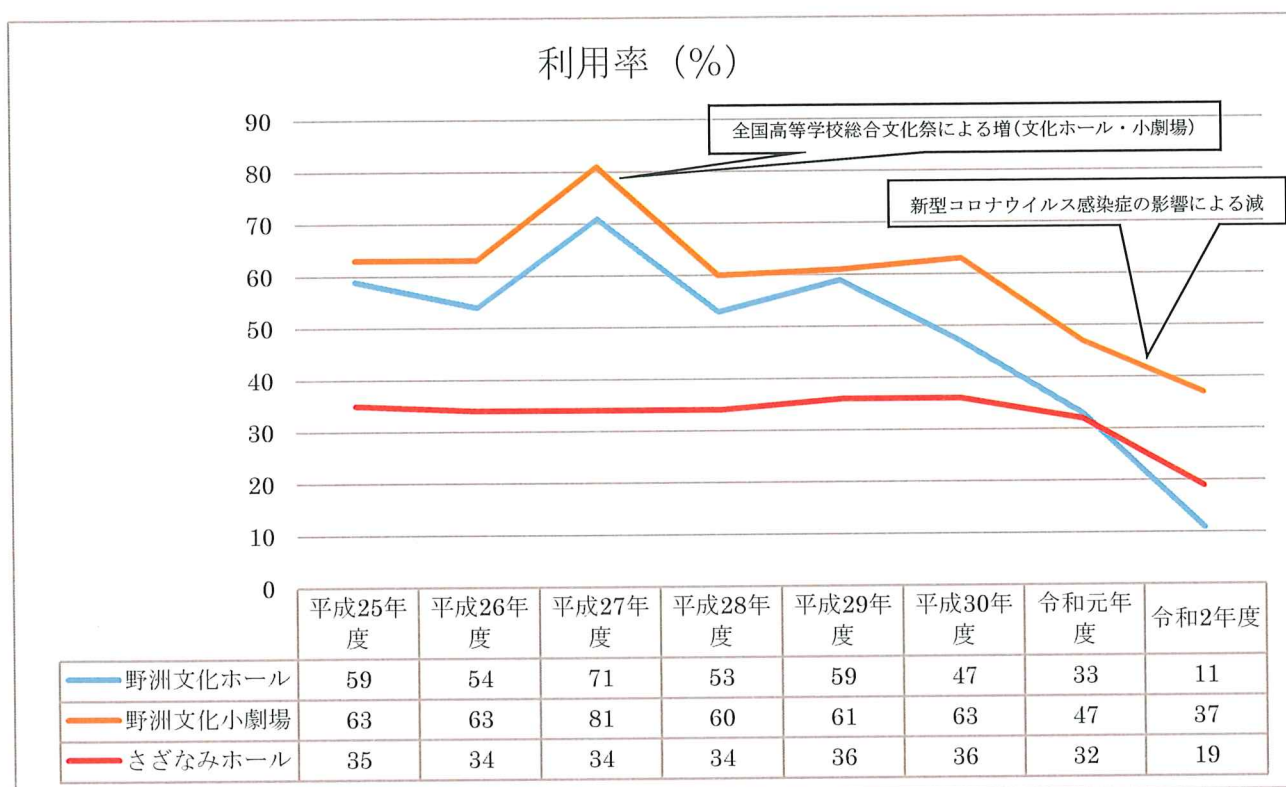
【3】施設の利用状況等

(1) 利用人数



- ① 各施設、令和元年2月頃から新型コロナウイルス感染症の影響により減少し、令和2年度は大幅に減少している。（令和2年4月18日から5月31日まで貸館休止）
- ② 平成27年度の野洲文化ホールと野洲文化小劇場は、全国高等学校総合文化祭での貸館があったことから多くなっている。
- ③ 野洲文化小劇場・さざなみホールは、平成30年度までは概ね横ばいとなっている。
- ④ 利用者数は、概ね施設規模に比例している。

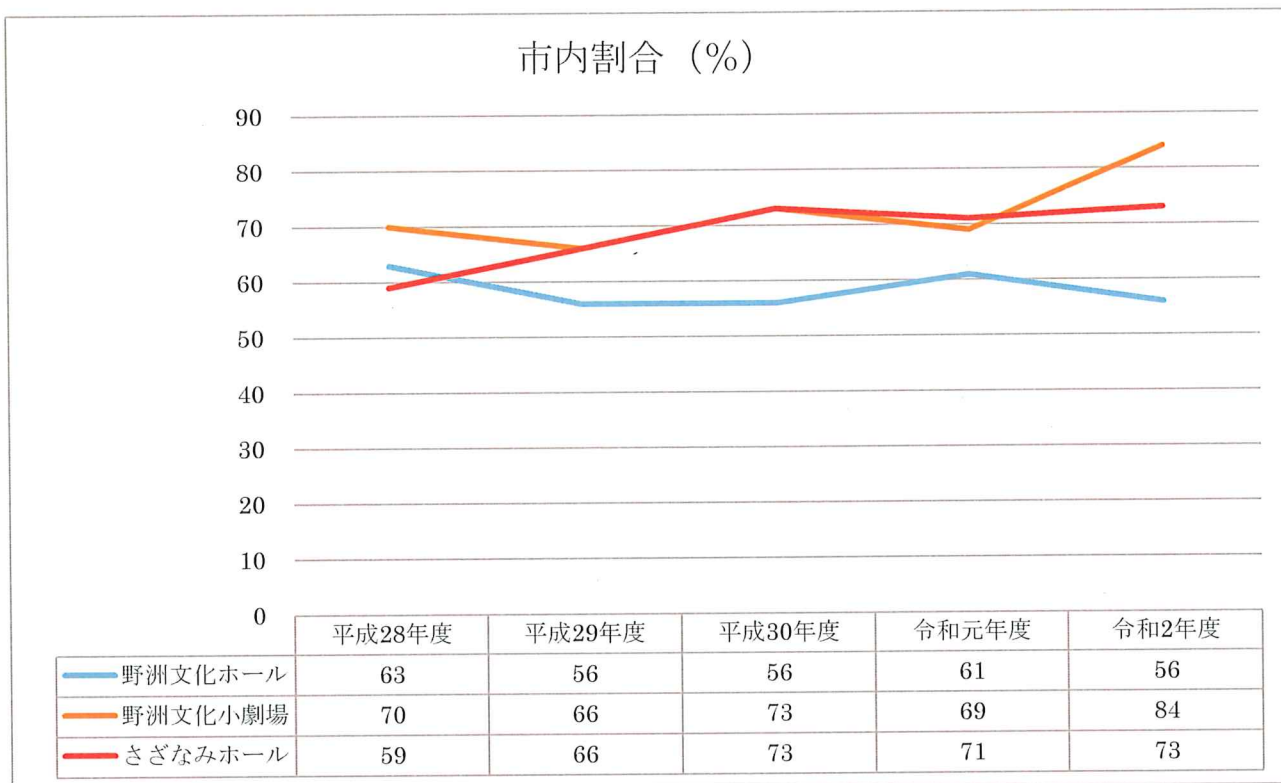
(2) 利用率



- ① 各施設、令和元年2月頃から新型コロナウイルス感染症の影響により減少し、令和2年度は大幅に減少している。(令和2年4月18日から5月31日まで貸館休止)
- ② 平成30年度までは野洲文化小劇場が最も高く、60%以上で推移している。次いで野洲文化ホールが概ね50%台である。さざなみホールが最も低く35%前後で推移している。
- ③ 平成27年度の野洲文化ホールと野洲文化小劇場の利用率が高いのは、全国高等学校総合文化祭での貸館があったことによる。

※利用率=貸館日数÷実質利用可能日×100

(3) 市内利用割合

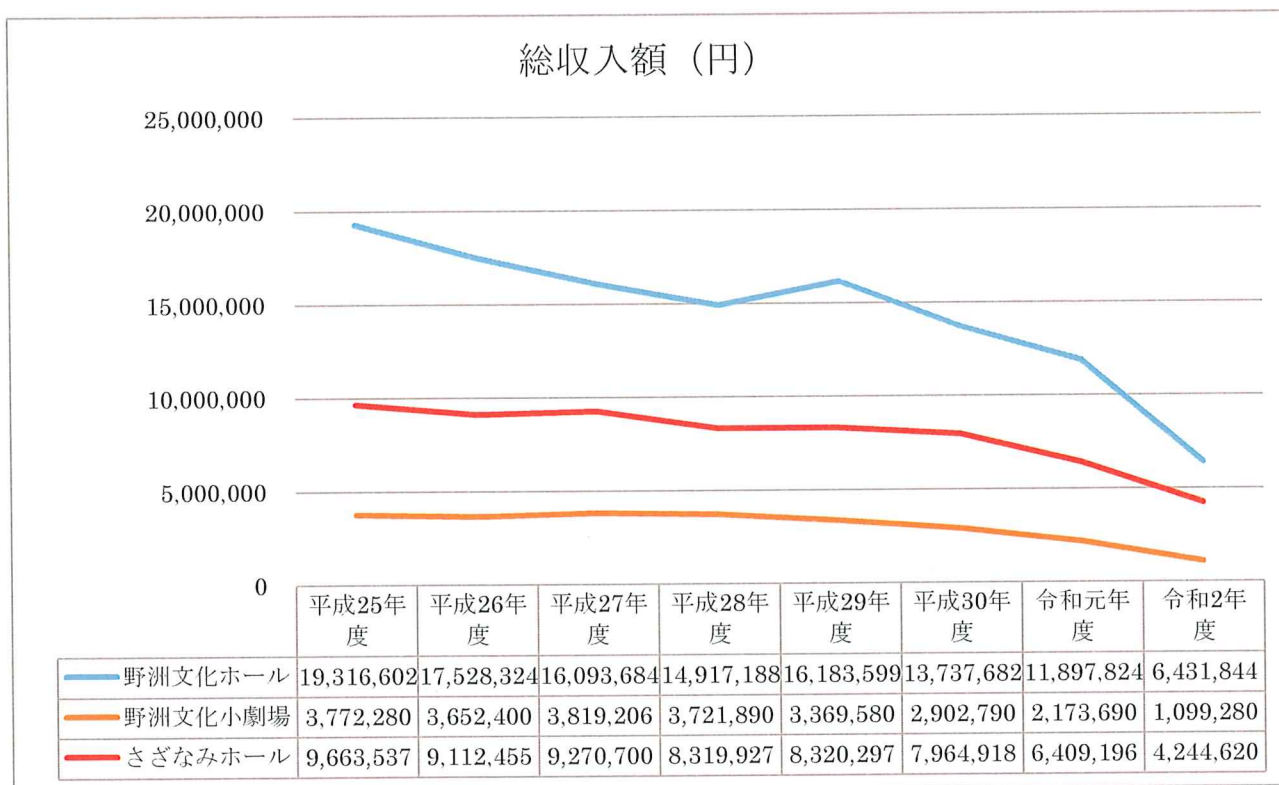


- ① 野洲文化ホールは市外の利用が約50%を占めている。
- ② 特に野洲文化小劇場とさざなみホールでは70%程度と高く、野洲文化小劇場では300名定員のスペースは多目的に利用が可能であるからと推察される。
また、さざなみホールでは会議室等を毎週定期的に音楽練習で利用する団体があるため。

※市内利用割合=市内利用件数÷利用件数×100

【4】施設の収支状況等

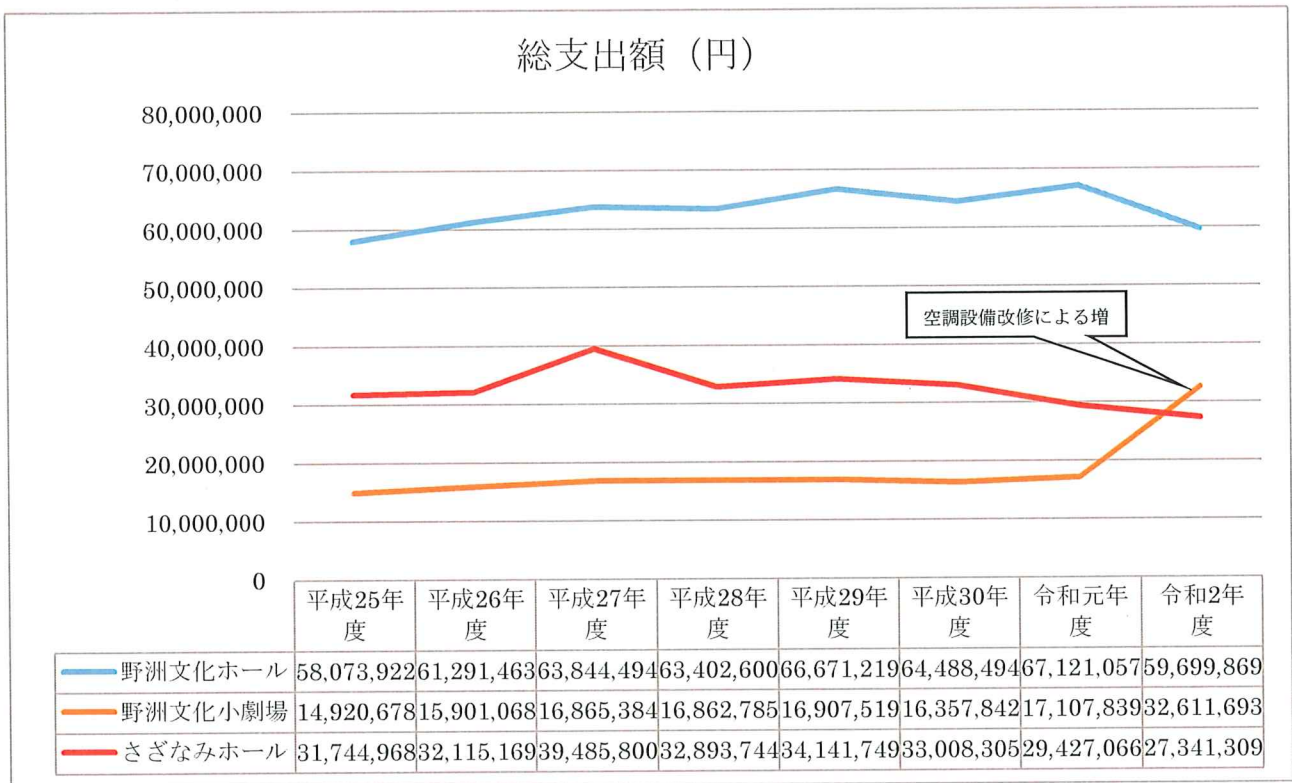
(1) 総収入額



※総収入額=（1）使用料収入+（2）文化振興事業収入+その他雑収入（チケット手数料販売やメンバーズやす会費、ネーミングライツ料(令和5年度まで契約)など)

※野洲文化小劇場は、文化振興事業がないこととその他雑収入は少額で野洲文化ホールとの区分けが困難なことから使用料収入のみとする。

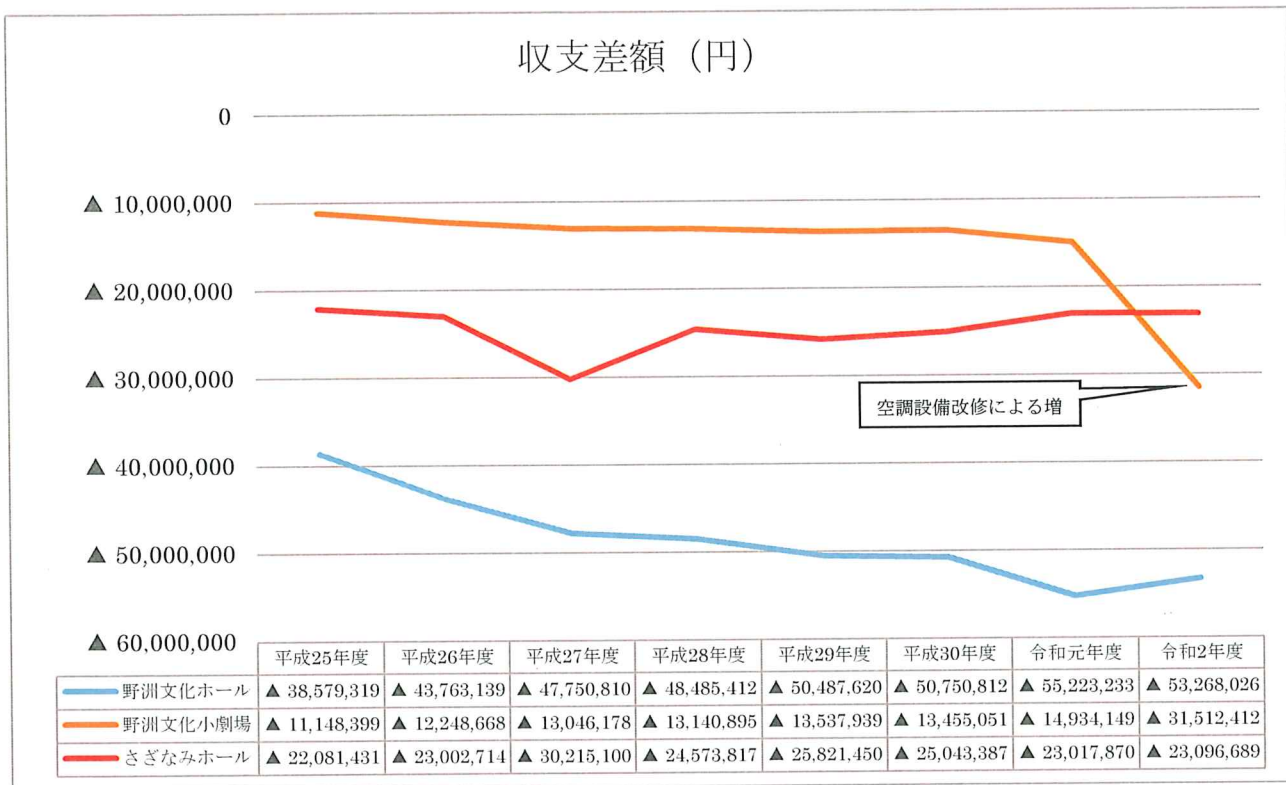
(2) 総支出



① 令和2年度の野洲文化小劇場は、空調設備改修の支出により大幅に増加している。

※総支出額=管理運営費+文化振興事業費+人件費

(3) 収支差額



- ① 野洲文化ホールは、収入の減少傾向と人件費増からマイナスが大きくなっている。
- ② 収支差額は、施設の規模に概ね比例している。
- ③ 令和2年度の野洲文化小劇場のマイナスは空調設備改修の支出によるもの。

第2章 施設の課題

【1】主な大規模な改修・修繕等項目と概算費用（単位：千円）

（令和2年度策定 個別施設計画より）

野洲文化ホール			野洲文化小劇場			さざなみホール		
順	項目	費用	順	項目	費用	順	項目	費用
R3	ワイヤレス機器更新	4,334	R4	ワイヤレス機器更新	2,800	R4	ワイヤレスマイクシステム更新	2,800
A	舞台照明設備更新(電源も含む)	314,710	A	舞台音響設備更新	132,660	A	屋根防水全面改修	45,000
〃	キュービクル、防災設備等更新	35,000	〃	舞台照明設備更新	72,820	〃	吊天井改修	41,800
〃	客席吊天井改修	41,800	〃	キュービクル(受電)設備更新	15,000	〃	空調改修(ホール棟、研修棟、事務所全部)	85,000
〃	舞台音響設備更新	165,000	〃	防災設備更新、防犯システム導入	7,500	〃	防災設備(一元化)、キュービクル等更新	35,000
〃	客席イス更新	27,500	〃	バリアフリー化	11,088	B	舞台機構(吊物・袖幕等)更新	61,000
〃	楽屋改修(照明LED化含む)	3,000	〃	舞台機構(吊物・袖幕等)更新	12,100	〃	各ドア改修(シリンダー交換含む)	15,000
〃	屋根防水全面	30,800	〃	屋根防水全面改修	15,000	〃	ピアノ庫改修	2,000
B	舞台機構(吊物・袖幕等)更新	61,000	〃	楽屋・通路照明LED化	1,000	〃	トイレ改修(障がい者トイレ含む)	18,000
〃	舞台下手袖拡張	50,000	〃	玄関先地盤沈下改修	5,000	〃	舞台音響設備更新	117,137
〃	外壁タイル、建築内装改修	55,000	B	全トイレ改修	10,500	〃	舞台照明設備更新(電源工事含む)	65,634

〃	空調機更新	75,000	〃	ピアノ庫設置	3,500	〃	防犯システム導入	1,500
〃	エレベーター設置	95,000	〃	内装更新	4,500	〃	内装更新	7,000
〃	各所バリアフリー化	4,000	〃	平台等設備更新	2,000	C	客席イス更新	20,000
〃	玄関先タイル、大階段等改修	20,000	〃	各席椅子更新	4,500	〃	廊下床面・ホワイエ等カーペット張替	5,000
〃	ロビー・待合所面積拡張	10,000				〃	舞台床張替、平台等更新	6,500
C	トイレ改修及び増設(多目的トイレ)	40,000				〃	駐車場拡張	5,000
〃	搬入庫・ピアノ庫改修	5,000				〃	エントランス照明改修	1,500
〃	ホール事務所改修、防犯システム導入	8,000				〃	駐輪場屋根改修(防水)	1,000
〃	舞台床張替、所作台・平台等更新	6,500						
〃	駐車場整備(白線引直含む)	3,000						
	合計	1,054,644		合計	299,968		合計	535,871

※内容は、3施設を存続する前提のものです。

※表の順はAを最優先とし、以下B・Cを表示。

※個別施設計画の期間は、令和3年度～令和8年度の6年間を対象としている。

第3章 公共施設のあり方

市ではインフラを含む公共施設全般について、将来維持できる施設量を試算し、将来の目標数値を定め、種別毎に長期的な方針を示すため、平成29年3月に「野洲市公共施設等総合管理計画」を策定している。

また、人口減少・少子高齢化の進展を踏まえ、公共施設において提供している事業・サービスについて、本市の総合計画との整合を図りながら、本市に適した公共施設のあり方を示すため、平成31年3月には「野洲市公共施設のあり方（第1期（2019～2026年度）整備方針）」を策定している。

「野洲市公共施設のあり方」は、「野洲市公共施設等総合管理計画」に即し、中長期的な公共施設（建築物）の更新・統廃合・長寿命化などのあり方を定めるものです。

この「野洲市公共施設のあり方」において、個別の公共施設について事業・サービス（ソフト面）及び建物の状況（ハード面）の両面から評価を行い、総合的な視点から整備の方向性を定めており、文化施設（野洲文化ホール、野洲文化小劇場、さざなみホール）は合併により重複しているホール機能について、効率的な運用を図るために集約化を行うこととしている。

（別添資料1 野洲市公共施設のあり方（抜粋））

第3章 第1期整備方針

（1）実施方針に基づく個別施設の整備方針

前章（2）実施方針に基づき、個別の公共施設について事業・サービス（ソフト面）及び建物の状況（ハード面）の両面から評価を行い、総合的な視点から2026年度までの整備の方向性を定めます。

② 事業・サービスを集約・複合化するもの

○文化施設（野洲文化ホール、野洲文化小劇場、さざなみホール）

設置目的	市民の文化の向上と芸術の振興を図る施設
施設の概要	・ 文化ホールは築35年、さざなみホールは築26年を経過しているものの、これまで計画的な大規模修繕・改修が行われておらず、設備等の老朽化が進んでいる。
集約・複合化の理由	・ 合併により重複しているホール機能について、効率的な運用を図るために集約化を行う。
個別施設のあり方	【集約化】

第4章 施設集約の基本的な考え方

【1】施設維持

個別施設計画から、今後6年間で施設維持のために必要となる改修・修繕費の概算は、野洲文化ホールが約10億6千万円、野洲文化小劇場が約3億円、さざなみホールが約5億4千万円となっている。

維持管理のために今後、年間に必要となる費用は収支差額（新型コロナウイルス感染症の影響が少ない平成30年度の実績）から、野洲文化ホールが約5.1千万円、野洲文化小劇場が約1.4千万円、さざなみホールが約2.5千万円となっている。

いずれの施設も維持するためには、相当の財政負担が伴うことと、今後の運営においても事業収入で運営経費を賄えないことから、1施設に集約することで財政負担の軽減を図る必要がある。

【2】経済面

1 施設へ集約した場合の概算効果額（効果額は平成29年度から令和元年度の過去3年間の平均）

A 野洲文化ホールに集約の場合

項目	野洲文化小劇場経費分	さざなみホール経費分	計	
総経費（年間）	16,791,067	32,192,373	48,983,440	①
総収入額（年間）	2,815,353	7,564,804	10,380,157	②
個別施設計画改修費用	299,968,000	535,871,000	835,839,000	③
効果額①-② 約38,600千円（年間）	改修費用③約835,000千円 （令和4年度～8年度）			

B 野洲文化小劇場に集約の場合

項目	野洲文化ホール経費分	さざなみホール経費分	計	
総経費（年間）	66,167,955	32,192,373	98,360,328	①
総収入額（年間）	13,939,702	7,564,804	21,504,506	②
個別施設計画改修費用	1,050,310,000	535,871,000	1,586,181,000	③
効果額①-② 約76,800千円（年間）	改修費用③約1,586,000千円 （令和4年度～8年度）			

C さざなみホールに集約の場合

項目	野洲文化ホール経費分	野洲文化小劇場経費分	計	
総経費（年間）	66,167,955	16,791,067	82,959,022	①
総収入額（年間）	13,939,702	2,815,353	16,755,055	②
個別施設計画改修費用	1,050,310,000	299,968,000	1,350,278,000	③
効果額①-② 約66,200千円（年間）	改修費用③約1,350,000千円 （令和4年度～8年度）			

※人件費・文化振興事業費は、集約後の体制等から現状からの集約分で単純に反映できない。特に人件費は、野洲文化ホール以外は現状の人数での管理運営は出来ず数人の増員が必要である。

【3】文化・芸術の振興

第2次総合計画や野洲市教育振興基本計画第3期において示している文化・芸術の振興においては、市民の文化・芸術活動の発表の場や優れた文化・芸術に触れ、親しむ機会の充実を図るため、今後も引き続き鑑賞型事業が行えるホール機能は存続させる必要がある。

第2次野洲市総合計画

施策4：生涯学習・生涯スポーツ・文化芸術の推進

取組方針：③文化芸術の振興

子どもから大人まで、鑑賞・創作の両面から市民が気軽に文化芸術に親しめる機会の充実を図ります。

主な取組：美術展示会や文化芸術祭等の文化・芸術活動の支援、舞台芸術の鑑賞機会の充実

野洲市教育振興基本計画第3期

施策の基本方向・目標：文化・歴史資源の継承と活用

施策32：文化・芸術活動への支援

文化・芸術については、鑑賞・創作の両面から、市民が気軽に親しめる機会の提供や環境整備が必要です。

- ① 文化・芸術活動に取り組んでいる多くの市民の活動への支援を行い、公共スペースの提供により身近な場所での活動を支援し、情報提供に努めます。
- ② ＊文化ホール3館では、地域の演奏者の育成、地域の音楽関係者との協働等により、演奏会の開催等で文化の向上と芸術の振興を推進します。また、文化芸術の振興に関する基本的な方針を確かめながら、文化ホール3館の活用方法を探ります。
- ③ 地域の人々が伝える日本の伝統文化や芸術等を、学校教育に取り入れ、次代を担う子どもたちが興味や関心をもつ機会づくりに努め、豊かな心や感受性が育めるよう進めます。
- ④ 美術展覧会・文化芸術祭等の開催を通じ文化・芸術活動の充実を図るとともに、文化・芸術活動の発表の場や鑑賞の機会を充実します。
- ⑤ 親しみやすいクラシックコンサート等を共催で誘致し、鑑賞の機会を提供するとともに、ピアノ演奏会や音楽会を開催し、音楽活動の支援と充実を図ります。また、＊音楽のあるまちづくり事業への支援を継続します。

＊音楽のあるまちづくり…演奏会を開催するなど、身近に音楽に触れる機会を提供し、音楽のあるまちづくりを推進している。

＊文化ホール3館…野洲文化ホール・野洲文化小劇場・さざなみホール。

第5章 集約案検討

1 集約案メリット・デメリット

1 施設への集約を基本として、野洲文化ホールに集約（A案）、野洲文化小劇場に集約（B案）、さざなみホールに集約（C案）の3案を検討する。

【A案】野洲文化ホールに集約

○メリット

- ・ 駅前の立地により、利便性は高い。
- ・ 1,000席固定座席のホールで、鑑賞型事業や発表の場の提供が継続できる。
- ・ 大型の貸館、イベントに対応できる。
- ・ ネーミングライツ料の収入が見込める。

●デメリット

- ・ 経費・改修費削減効果は低く、財政への負担が最も大きい。
- ・ 収支差額が年間5.1千万円以上のマイナスになっており、運営を継続する場合の財政負担が最も大きい。
- ・ 野洲文化ホールと野洲文化小劇場で規模に応じた一体的な利用が可能となっているが、1施設となる事でそのメリットが失われる。
- ・ 舞台照明や音響設備の更新が優先的に必要であり、直近において高額な財政負担が必要になる。
- ・ バリアフリー化への対応も優先的に必要であり、直近において更なる財政負担となる。

【B案】野洲文化小劇場に集約

○メリット

- ・ 駅前の立地により、利便性は高い。
- ・ 管理運営経費・改修費削減効果は高く、財政への負担が最も小さい。
- ・ 300人定員のスペースは多目的な利用が可能である。

●デメリット

- ・ 十分なホール機能がないため、鑑賞型事業が行えない。
- ・ 舞台機能が不十分で発表の場として限定的である。
- ・ 野洲文化ホールの補完的な施設であり、単体では文化施設として不十分である。

【C案】 さざなみホールに集約

○メリット

- ・ホール以外に会議室等の諸室が多く複合施設として、1施設で多様な文化・芸術の振興が継続できる。
- ・建築年は最も新しい。
- ・495席固定座席のホールを有しており、鑑賞型事業が継続できる。
- ・500人規模のホールは、野洲市文化芸術祭や市民文化芸術団体の発表の場を一定保つことができる。
- ・成人式など市の行事や野洲市青少年美術展、市で事務局を持つ団体（野洲市青少年育成市民会議・野洲市PTA連絡協議会）の催し物なども継続できる。
- ・バリアフリーは対応できている。

●デメリット

- ・アクセスが悪く路線バスは土曜日は極小、日曜日・祝日は運行がない。
- ・適正な施設運営のためには、雨漏り・ホールへの浸水は最優先に改修し解消することが必要である。
- ・鑑賞型事業は野洲文化ホールと比べると限定的になる。
- ・改修時に意匠への配慮等が必要になる。

2 集約に必要な事業費見込み等

【1】 改修費

(1) 改修費の見込み額

文化ホール、文化小劇場、さざなみホール大規模改修費用

個別施設計画・・・今後6年間で

文化ホール 1,054,644千円

文化小劇場 299,968千円

さざなみホール 535,871千円 が必要となる。

起 債・・・公共施設等適正管理推進事業債（充当率90%、交付税算入50%）

緊急防災・減災事業債（充当率100%、交付税算入70%）

→避難所に指定されている さざなみホールのみ対象

【適用想定事業内容】 吊天井改修・空調改修・防災設備、
キュービクル等更新（個別施設計画より）

【財源試算】（改修費用：令和2年個別施設計画）

項目	単位	文化ホール	文化小劇場	さざなみホール	備考
① 歳出	(千円)	1,054,644	299,968	535,871	
② 歳入	(千円)	1,054,644	299,968	535,871	③+④
③ 起債	(千円)	949,100	269,900	498,400	⑨+⑩
⑨ 公適債	(千円)	949,100	269,900	336,600	充当率90%
⑩ 緊防債	(千円)			161,800	充当率100%
④ 一財	(千円)	105,544	30,068	37,471	①-③
⑤ 償還額	(千円/年)	43,140	12,268	22,654	③/22
⑥ 交付税算入	(千円/年)	21,570	6,134	12,797	⑨/22×0.5 ⑩/22×0.7
⑦ 実質負担額	(千円/年)	21,570	6,134	9,857	⑤-⑥

* 起債・・・公共施設等適正管理推進事業債（充当率90%、交付税算入50%）

（留意事項）

1. 公共施設等適正管理推進事業債の借入条件等の詳細は現時点では不明であるため、現行制度（集約化・複合事業）に基づき試算する。
2. 起債償還期間は、25年うち3年据置とする。（試算では、利息を考慮していない。）

【2】除却後の跡地利用

（1）野洲文化ホールと野洲文化小劇場を除却した場合

当該区域は、野洲駅南口周辺整備構想（見直し）によりDブロック（文化・スポーツ施設）として位置付けられており、その整備時期が、中・後期（令和10年から）となっている。

これより、市として令和9年度までに新たな都市機能の整備を検討する必要がある。

但し、野洲文化ホールは、コミュニティセンターやすとの共有部分があり、野洲文化小劇場は、コミュニティセンターやすのホールの役割があることから、併せて今後検討する必要がある。

（2）さざなみホールを除却した場合

当該地は、市街化調整区域であることから除却後の跡地利用の目的は制限されることから、公共施設用地としての再利用が考えられる。

但し、民間利用としては、地区計画に位置付けることにより開発は不可能ではない。

3 集約案評価・結果

■ 3案を財政負担面、文化・芸術の振興面、施設利用面より評価

3案を先に示した3館の状況等から財政負担面、継続的な文化・芸術の振興面（鑑賞の機会、発表の場、活動・学習の場・機会）、施設利用面（利用率、市内割合、バリアフリー）から順位付け点数化することにより評価する。

項目 案	財政負担面	文化・芸術の振興面			施設利用面			合計点数
		鑑賞の機会	発表の場 [㊤]	活動・学習の場・機会	利用率	市内割合	バリアフリー	
A案	1点	3点	3点	2点	2点	1点	1点	13点
B案	3点	1点	1点	1点	3点	3点	2点	14点
C案	2点	2点	2点	3点	1点	2点	3点	15点

◎順位による点数…1位：3点、2位：2点、3位：1点

㊤…発表の場は、舞台での発表（晴れの場）としての要素による評価とする。

評価 ⇒ 財政負担面、文化・芸術の振興面、施設利用面の各項目において、それぞれの施設で有利不利はあるが合計点数で3案に大差はない。

集約化検討において財政負担面と文化・芸術の振興面が重要なポイントとなることから、文化・芸術の振興の継続において特に鑑賞機会の確保を考慮しホール機能を備えていること、行財政改革の観点から概算効果額と除却費の見込み額を考慮したうえで総合的に評価すると、C案が有利と判断できる。

【検討結果】さざなみホールに集約

- ・ 1施設への集約後も複合施設であることから文化施設としての機能を一定保つことができる。
- ・ 495席固定座席のホールではあるが、3面舞台構造などのホール機能を活かした鑑賞型事業や文化振興事業が継続でき、市民が文化・芸術に親しむ機会を引続き提供できる。
- ・ 唯一バリアフリー化できている。
- ・ 継続のための主な施設改修においては、有利な起債を活用することができる見込みがあり、負担軽減が図れる。

文化施設集約化スケジュール（案）

資料1

年月	令和4年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設毎	野洲文化ホール											
	野洲文化小劇場									貸館受付終了	閉館周知	
	さざなみホール										休館周知	

年月	令和5年度												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
施設毎	野洲文化ホール												
	野洲文化小劇場			解体実施設計業務(注1)							閉館		
				閉館準備業務									
	さざなみホール	貸館受付終了	改修基本設計業務				改修実施設計業務						
							休館準備業務						

年月	令和6年度													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
施設毎	野洲文化ホール	貸館受付終了	解体実施設計業務(注2)						閉館準備業務					閉館
	野洲文化小劇場		解体工事(注1)											
	さざなみホール	休館	改修工事											
			新体制・新使用料の検討					新体制の検討・閉館準備						

年月	令和7年度												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
施設毎	野洲文化ホール		解体工事(注2)										
	野洲文化小劇場												
	さざなみホール	リニューアルオープン											

(注1) 野洲文化小劇場は、コミュニティセンターやずのホール機能があることから、解体についてはコミュニティセンターやず指定管理者の野洲学区自治連合会の意向を確認したうえで検討していきます。

(注2) 野洲文化ホールの解体工事については、コミュニティセンターやずの建物部分を残して解体する予定です。